

横浜市小学校社会科研究会

5学年部会

# 研修会記録

第 5 号

令和元年 10月 30日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新井 篤 志

同 学年部長 加藤 沙 智 子

【提案日時】

10月 2日（水）

提案 佐藤 航 先生（日吉台小）

【会 場】

横浜市立 丸山台小学校

司会 能登 清仁 先生（阿久和小）

記録 田中 敏嗣 先生（永野小）

○単元名 わたしたちの暮らしを支える水産業 ～いわき市のYさんから考える日本の水産業～

○提案者より

- ・Yさんの仕事から、ブランド「常磐もの」への流れがよかったかどうか。
- ・単元を見通す課題設定とはならなかった。日本全体の漁業に理解を抽象化することが難しかった。

<成果>

- ・「メヒカリ」の給食献立を調整して単元に合わせたり、生の状態を触ったり、共通体験ができた。

<提案>

○グループ協議

<成果>

- ・いわき市まで出向き、Yさんという人と出会えたことは、素晴らしい財産になる。
- ・ふりかえりカードから、「消費者の視点」やで学び深めていることが分かる児童や、最後まで自分の考えを悩みながら学んでいる児童の様子が分かった。

<今後に生かすために>

- ・Yさんを追っていき、その苦勞を知り、子どもたちが「Yさんを応援したい」「そのメヒカリは安心して信頼して食べられる」という思いになった上で、風評被害などの払しょくのために、ブランド化「常磐もの」などの効果を考えていくとよい。

<講師の先生より>

<菊名小学校 校長 野間 義晴 先生>

○「問い」と「問い」をつなげる学習の進め方、を意識していきたい。毎時の終わりが、次時につながるように。（ex.Yさんの努力→売り上げの低迷→ブランド化の必要性→…）

○対話的な学習は「変容」が醍醐味。見通しをもって学びながら、毎時間のふりかえりの中で、自分の考えの変容が確認できるとよい。

○人々の協力関係（漁師、市場、仲買人、運送会社など）が見えてくるとよい。Yさんに寄り添って学ぶことがよい。

（ex.ブランド化について、Yさんや他の立場の人はどうしているのか。風評被害を乗り越えるために必要であるなどの考え。）

<上寺尾小学校 校長 皆川 吉次 先生>

- ・授業記録を見ると、T→Cへの質問が75%。一問一答のやり取りになっているようだ。

「みんなはどう思う？」広げる。素朴なつぶやきを拾う。「よく調べたね！」褒める。揺さぶる。などにより、対話的な学習にしていきたい。

- ・ワークシートの効果について考えてほしい。文脈にそって穴埋めするだけのものは、自分で考える力が付きにくいという面もある。

文責 加地 亮祐 （新鶴見 小学校）